

中国大気環境改善のための都市間連携協力

中央・地方政府の政策動向の実態把握
(2018年3月～2019年2月)
【大気汚染重点地域の政策動向】

目次

1. 北京・天津・河北地域及び汾渭平原地域汚染対策	1
【 2018年3月 】	1
1.1 生態環境部が2017年10月から2018年2月までの北京・天津・河北大気汚染輸 送経路都市大気質状況を通報	1
【 2018年5月 】	2
1.2 北京・天津・河北および周辺区域で大気質予報システムが大気汚染防止をアシスト	2
【 2018年8月 】	3
1.3 北京・天津・河北および周辺地区の大気質が引き続き改善し大気汚染共同予防管理 が深化.....	3
【 2018年9月 】	5
1.4 生態環境部が「北京・天津・河北および周辺部2018～2019年秋冬季大気汚染総合 対策攻略行動計画」を公表.....	5
【 2018年10月 】	7
1.5 生態環境部が「汾渭平原2018～2019年秋冬季大気汚染総合対策攻略行動計画」を 公表	7
2. 長江デルタ地域汚染対策	9
【 2018年4月 】	9
2.1 長江デルタ区域汚染防止協力メカニズム会議を開催.....	9
【 2018年11月 】	10
2.2 生態環境部が「長江デルタ地区2018～2019年秋冬大気汚染総合対策攻略行動計 画」を公表	10

1. 北京・天津・河北地域及び汾渭平原地域汚染対策

【2018年3月】

1.1 生態環境部が2017年10月から2018年2月までの北京・天津・河北大気汚染輸送経路都市大気質状況を通報

公表日：2018年3月23日
公表組織：生態環境部
タイプ：ニュース
キーワード：大気汚染防止、微小粒子状物質、大気質、大気汚染輸送経路都市

「大気汚染防止行動計画」と「北京・天津・河北および周辺地区2017-2018年秋冬大気汚染総合対策戦略行動計画」の要求を実行するために、生態環境部は北京・天津・河北大気汚染輸送経路都市（以下「2+26」都市）に関係する省と市の人民政府に「北京・天津・河北大気汚染輸送経路都市の2017年10月から2018年2月までの環境大気質関連状況通報に関する書簡」（以下「通報」）を送った。

「通報」は、「2+26」都市の2017年10月から2018年2月までの微小粒子状物質（PM_{2.5}）の平均濃度と前年同期比変動率についてそれぞれランキングした。

2017年10月から2018年2月までの「2+26」都市のPM_{2.5}平均濃度の範囲は46 μg/m³～104 μg/m³、平均は78 μg/m³で、前年同期比30.4%低下した。PM_{2.5}平均濃度が最も低い3都市は順に北京、廊坊、天津で、それぞれ46 μg/m³、53 μg/m³、60 μg/m³であった。濃度が最も高い3都市は順に邯鄲、邢台、安陽で、それぞれ104 μg/m³、97 μg/m³、97 μg/m³であった。

改善率についてみると、「2+26」都市の2017年10月から2018年2月までのPM_{2.5}平均濃度はいずれも前年同期比低下し、低下幅はいずれも改善目標の進捗要求を達成した。低下幅上位3位の都市は北京、石家荘、廊坊で、前年同期比それぞれ54.5%、48.6%、48.0%低下した。晋城、陽泉、邯鄲の2018年2月のPM_{2.5}平均濃度は前年同期比それぞれ7.1%、5.2%、1.0%上昇し、その他25都市は前年同期比低下した。

「通報」はまた、中国気象局国家気候センター、中国環境モニタリングセンターの共同予測分析として、2018年3月は大気循環の変化が顕著となり、上旬は子午面循環により北方地区で静穏状態が発生する確率は低いものの、中下旬は循環が弱まり、北方地区で静穏状態が発生する確率が高まることで、汚染物質拡散条件が悪化することを示した。各地区に対して、重汚染天気への積極的な対応、監督検査の強化、重汚染天気緊急対応計画発動と緊急排出削減措置の実行状況の監督検査強化、緊急排出削減措置の実行確保を求め、秋冬大気汚染総合対策戦略行動目標の達成に向けて努力するよう促した。

公表組織：生態環境部

URL:http://www.mep.gov.cn/gkml/sthjbgw/qt/201803/t20180323_432969.htm?COLLCC

【 2018年5月 】

1.2 北京・天津・河北および周辺区域で大気質予報システムが大気汚染防止をアシスト

公表日：2018年5月16日
公表組織：中国環境報
タイプ：ニュース
キーワード：大気汚染防止、重汚染天気、6種類の汚染物質、大気質予報システム

中国環境モニタリングセンター（監視総站）が建設し運営している北京・天津・河北および周辺区域大気質予報システムが、第一回「デジタル・チャイナ」構築サミットの150件の年間実践成果プロジェクトの中で抜群の評価を得て、デジタル化の民生領域における優秀事例として、「デジタル・チャイナ構築年間ベスト・プラクティス」に選ばれた。大気質予報は重汚染天気への対応を改善し、警報の早期化と積極的対応を実現し、正確な大気質予報によって「青空防衛戦の」主導権を獲得した。

2012年の秋冬には中国中東部地区で大気重汚染プロセスが頻発し、大気質への注目がこれまで以上に高まった。2013年に国務院は「大気汚染防止行動計画」を配布し、「モニタリング警報緊急対応体系を構築し、重汚染天気に適切に対応する」ことを明確に要求した。

この予報システムは、大気質予報作業過程で参照すべき汚染源、大気モニタリング、気象などの総合情報を統合し、併せて全国1,436カ所の大気自動モニタリングステーションの一般的観測項目の6種類の汚染物質（PM_{2.5}、PM₁₀、オゾン、二酸化窒素、一酸化炭素、二酸化硫黄）モニタリングデータにアクセスし、併せて準リアルタイム同期化を実現した。また、中央气象台、欧州中期予報センター、米国国立環境予報センター（NCEP）、日本国気象庁など世界の主要予報機関の予報設備を統合した。

生態環境管理部局、各区域、省市環境大気質予報部局と大衆は、このシステムの主なサービス対象である。この大気予報システムは、生態環境管理部局に北京・天津・河北および周辺区域の情勢予報情報、重汚染警報情報などの予報を、併せて全国各区域、省、市に対し大気質業務予報をそれぞれ毎日提供し、大衆に区域予報情報と重汚染警報情報を提供している。

このシステムは、新基準が定める一般的観測項目の6種類の汚染物質（PM_{2.5}、PM₁₀、オゾン、二酸化窒素、一酸化炭素、二酸化硫黄）を主要指標とする北京・天津・河北および周辺区域の7日間大気質業務予報を実現し、中国の「国家—区域—省—都市」四段階大気質業務予報体系の発展を牽引し、国内の大気質業務予報体系と技術体系の空白を埋めた。

2013年10月に正式に大気質業務予報を開始して以降、中国環境モニタリングセンターは生態環境管理部局に北京・天津・河北および周辺区域予報情報を累計で1,600回以上提供

した。当初の区域全体情勢定性判断の粗い予報から、汚染過程の開始・終了時間、ピーク濃度および影響範囲を提供する信頼性の高い精密な予報に発展し、業務予報システムはますます成熟し、区域重汚染過程予報の確度は100%に達した。

公表組織：中国環境報

URL: http://news.cenews.com.cn/html/2018-05/16/content_73008.htm

【2018年8月】

1.3 北京・天津・河北および周辺地区の大気質が引き続き改善し大気汚染共同予防管理が深化

公表日：2018年8月30日
公表組織：中国環境報
分類：ニュース
キーワード：大気汚染防止、区域共同予防管理、北京・天津・河北、微小粒子状物質

生態環境部の公表データによると、1～7月、北京・天津・河北および周辺地区の大気質平均優良天気日数比率は46.4%で、前年同期比1.2ポイント上昇し、PM_{2.5}濃度は62 μg/m³で、前年同期比13.9%低下した。

「大気十条」第一段階目標任務達成後、北京・天津・河北および周辺地区では大気質改善の勢いを引き続き維持している。2018年1～6月の169都市を対象とした大気質改善幅ランキングでは、上位20都市中、北京・天津・河北および周辺地区の都市が14を占めた。

北京・天津・河北および周辺各地が相次いで公表した大気対策成績表は、各地の大気質改善傾向を示している。北京市の1～7月のPM_{2.5}平均濃度は55 μg/m³で、前年同期比14.1%低下した。河北省は2018年7月、2017年の同期と比べて11区設市大気質が全て改善し、大気質総合指数はそれぞれ7.4%～26.2%低下した。さらに天津市は1～7月のPM_{2.5}がここ5年間の同期の最良水準となり、平均濃度は54 μg/m³で、前年同期比20.6%低下した。

「大気十条」第一段階目標任務達成後も、北京・天津・河北および周辺地区には大気汚染防止の取り組みに緩みはない。北京、天津、河北、山東、山西、河南が大気汚染防止2018年行動計画や2018～2020年三年行動計画を制定し、大気汚染防止措置を一層精緻化し、地域の実情を踏まえ、大気汚染防止の重点を「散・乱・汚」企業対策、生活用石炭対策、石炭ボイラー対策、工業企業逸散排出規制、移動源規制、ピークシフト生産などの分野に置いた。例えば北京では、移動源の「単独突出」状況に対応して、規制をさらに強化し、2018年上半期に大型ディーゼル車などの高排出車を厳しく規制し、上半期の大型ディーゼル車処罰台数は2017年通年の2.6倍になった。重点業種に対し河北省唐山市は鉄鋼業ピークシフト生産の常態化を実行した。

2018年上半期、北京・天津・河北および周辺地区の「道路輸送から鉄道輸送への転換」のスピードが加速した。唐呼（唐山—フフホト）線の灤平東から曹妃甸西の区間で1万トン級列車が正式に運行を開始したほか、建築材料北京受入グリーン物流大経路プロジェクトが決定した。河南安陽鉄道総合整備工務段も天津港物流発展有限公司と初めて提携し、大口物流の「道路輸送から鉄道輸送への転換」を推進した。交通輸送構造の調整は、この区域の大気質の改善も促している。

大気汚染防止にとって、区域共同予防管理はとりわけ重要である。同じ空の下、深刻な大気汚染に直面すれば、誰にもどの地区にも例外はない。都市間の大気汚染変化過程は明らかに同期性を示し、区域的汚染特徴が顕著に現れている。

我が国の現段階の大気汚染対策の過程において、区域共同予防管理は重大なブレークスルーを実現し、北京・天津・河北、長江デルタ、珠江デルタなどの重点区域は大気汚染防止協力メカニズムを構築した。その中で、北京・天津・河北は区域汚染共同予防管理強化において画期的成果を勝ち取り、「大気十条」第一段階の順調な目標達成につながった。

2010年に国務院弁公庁が転送した「大気汚染共同予防管理事業推進・区域大気質改善に関する環境保護部などの部局の指導意見」の中で、組織調整を強化し、区域大気汚染共同予防管理の調整メカニズムを構築することが早くも提起された。2013年10月に、北京・天津・河北および周辺地区大気汚染防止協力グループが設立され、区域大気汚染防止の連携協力の強化と、汚染対策合力の形成が図られた。北京・天津・河北および周辺地区の大気汚染防止事業が継続的に推進され、当初の「各自で戦う」から「集団作戦」に転換し、汚染対策合力が徐々に形成された。北京・天津・河北および周辺地区は心をついにし、力をついに合わせ、資源を共有し、責任を共同負担し、互いに支援し、青空保護戦のために基礎固めを行った。

秋冬の大気汚染防止は、北京・天津・河北および周辺地区の大気質改善における重点であり難点である。また、この区域で攻略戦に勝利するためのキーポイントでもある。協力グループはこのキーポイントをしっかりと押さえ、重点的に対応し、長期効果メカニズムを形成し、この区域で早期警報等級基準の統一、早期警報情報公表の統一を実現した。

また、北京・天津・河北三省市は統一法の執行も実現した。2015年11月、北京・天津・河北三省市の環境保護部局は「北京・天津・河北環境法執行連携メカニズム」を正式に開始した。その後、三地区は毎年、環境法執行職員を相手側の管轄区域に相互派遣して合同検査を実施している。秋冬には三地区の環境保護部局が環境法執行連携を全面的に強化し、各種大気環境違法行為を厳重に取り締まっている。

北京・天津・河北および周辺地区の大気質は全体として改善傾向であるが、揺り戻しも存在する。2018年6月を例にとると、北京・天津・河北および周辺地区「2+26」都市の平均優良天気日数比率は16.7%で、前年同期比10.8ポイント低下した。また、1～7月の大気質ランキングワースト20都市に、この区域の13都市が含まれていた。

現在、大気汚染の比較的容易な問題はほぼ解決し、大気汚染防止の攻略段階に突入してい

る。残っている問題は全て難問であるが、必ずや困難を乗り越えて青空保護戦に勝利しなければならない。

北京・天津・河北および周辺地区大気汚染共同予防管理協力メカニズムの整備を促進するために、7月11日、国務院弁公庁は「北京・天津・河北および周辺地区大気汚染防止協力グループ」を「北京・天津・河北および周辺地区大気汚染防止指導グループ」に変更する通知を公布した。

これは我が国の地区横断環境保護体制メカニズム分野の最適化・深化、そして最新の探求であり、北京・天津・河北および周辺地区大気汚染防止事業のさらなる強化を示している。また、大気汚染は区域内各地区間の相互影響だけでなく、大きな区域と区域の間でも同様に相互に影響しあっている。

汾渭平原は我が国でPM_{2.5}濃度が二番目に高く、二酸化硫黄濃度が最も高い区域である。この区域の一部の都市は北京・天津・河北および周辺地区に隣接している。2018年2月、全国環境保護活動会議は、汾渭平原と北京・天津・河北および周辺、長江デルタを一緒に青空保護戦の主戦場に指定した。

指導グループ設立後、汾渭平原の大気汚染防止協力も指導グループの統一指導に組み込まれた。北京・天津・河北および周辺地区と汾渭平原の大気汚染防止事業は、より権威ある指導部、より厳密な組織、より科学的な決定、より有力な計画配置の新たな段階に突入した。

公表組織：中国環境報

URL: <http://www.hbj.hd.gov.cn/main/detail/75147>

【 2018年9月 】

1.4 生態環境部が「北京・天津・河北および周辺部 2018～2019年秋冬季大気汚染総合対策攻略行動計画」を公表

公表日：2018年9月21日
公表組織：生態環境部
分類：政策ニュース
キーワード：大気汚染防止、北京・天津・河北、ディーゼルトラック、工業窯炉、揮発性有機化合物

国務院の青空保護戦勝利に関する政策決定を貫徹し、「青空保護戦に勝利するための三年行動計画」を実行し、2018～2019年秋冬大気汚染防止事業を全力で実施するために、韓正国務院副総理は北京・天津・河北および周辺部大気汚染防止指導グループ第1回会議を開催し、重要演説を行った。会議で「北京・天津・河北および周辺部 2018～2019年秋冬季大気汚染総合対策攻略行動計画」（以下「計画」）が承認された。

「計画」は、以下を指摘している。関係機関が職務分担に従って各地の実施を指導し、政策措置を改善し、支援を強化しなければならない。地方人民政府は任務を細分化し、タイムスケジュールと責任者を明確にしなければならない。企業は自発的に社会的責任を負担し、実施計画を制定しなければならない。中央企業は模範的役割を果たさなければならない。

「計画」は、2018年秋冬大気汚染対策攻略行動の主な目標として、2018年大気質改善目標の完全達成を挙げているほか、2018年10月1日から2019年3月31日まで、北京・天津・河北および周辺部のPM_{2.5}平均濃度を前年同期比3%前後下げ、重度以上の汚染天気日数を前年同期比3%前後減らすと規定している。攻略行動実施範囲は北京・天津・河北および周辺部の「2+26」都市である。

「計画」では、各地区、各部局、関係中央企業が問題指向を堅持し、産業構造、エネルギー構造、輸送構造、土地利用構造の調整・最適化に立脚し、クリーン暖房、道路から鉄道への転換、企業の基準引き上げ対応改造を重点に、「散・乱・汚」企業の総合的な取締の成果を突き固め、ディーゼルトラック、工業窯炉、揮発性有機化合物（VOCs）特別取締に全力で取り組み、区域共同予防管理を強化し、重汚染天気に有効に対応することが強調されている。

「計画」は、以下を明確に要求している。現地事情に応じて工業企業ピークシフト生産を推進する。差別化ピークシフト生産を実行し、画一的方法を厳禁する。各種汚染物質の安定的基準達成排出ができなかったり、汚染排出許可管理要求を満たさなかったり、2018年から2019年秋冬大気汚染総合対策改造任務を期限内に完了できない場合は、ピークシフト生産措置を全面的に実行する。「産業構造調整指導目録」の制限対象になっている場合は、操業制限比率を高めるか、操業停止とする。業種汚染排出業績評価水準が同業他社よりも著しく良い環境保護ベンチマーク企業に対しては、操業制限を実施しない。ピークシフト生産企業が暖房供給、都市ごみや有害廃棄物のコベネフィット型処理などの民生任務を行っている場合は、基本的民生ニーズは保証しなければならない。

各関係省（市）は、2018年9月末までに生態環境部に「散・乱・汚」企業整理整頓プロジェクトリスト、生活用石炭対策の対象村落と家庭確定リスト、重汚染天気緊急対応計画排出削減プロジェクトリストを提出しなければならない。2018年10月より、関係省（市）と中央企業は毎月5日までに重点任務進捗状況を報告しなければならない。

北京・天津・河北および周辺部大気汚染防止指導グループ弁公室は、各地の大気質改善と重点任務進捗状況の月間スケジュールリング、月間ランキング、四半期考課を行う。四半期ごとの大気質改善幅が目標要求に達しない、重点任務の進捗が緩慢である、または大気質指数（AQI）が継続的に計測不能なレベルに達している都市と区県に対しては、政府トップリーダーの公開喚問を行う。終了時大気質改善目標任務を達成できなかった、または重点任務の進捗が緩慢な都市と区県に対しては、担当リーダーを厳しく問責し、区域環境影響評価の許可制限を実施する。モニタリングデータの改ざんや偽造が発見された場合は、直ちに考課不合格とし、法律と党紀に従って責任を追及する。

公表組織：生態環境部

URL: http://www.mee.gov.cn/gkml/sthjbgw/sthjbjwj/201809/t20180927_630570.htm

【 2018 年 10 月 】

1.5 生態環境部が「汾渭平原 2018～2019 年秋冬季大気汚染総合対策攻略行動計画」を公表

公表日：2018 年 10 月 25 日
公表組織：生態環境部
分類：政策ニュース
キーワード：大気汚染防止、汾渭平原、秋冬、微小粒子状物質、構造調整

国務院の青空保護戦勝利に関する政策決定を貫徹し、「青空保護戦に勝利するための三年行動計画」を実行し、全力で 2018～2019 年秋冬季大気汚染防止業務に取り組むために、生態環境部は「汾渭平原 2018～2019 年秋冬季大気汚染総合対策攻略行動計画」（以下「計画」）を公表した。

「計画」は、汾渭平原の 2018 年秋冬季大気対策攻略目標について、2018 年大気質改善目標を完全に達成すること、2018 年 10 月 1 日から 2019 年 3 月 31 日までの汾渭平原の微小粒子状物質（PM_{2.5}）平均濃度を前年同期比約 4%低下させ、重度以上の汚染天気日数を前年同期比約 4%減らすこと、を要求している。

「計画」の実施範囲は、山西省の晋中、运城、臨汾、吕梁、河南省の洛陽、三門峽、陝西省の西安（西咸新区を含む）、銅川、宝鶏、咸陽、渭南（韓城を含む）および楊凌モデル区を含む汾渭平原である。

「計画」の基本理念は、問題指向を堅持し、産業構造、エネルギー構造、輸送構造、土地利用構造の調整最適化に立脚し、石炭燃焼汚染のコントロールを重点に、工業企業の完全基準達成排出と「散・乱・汚」企業の総合是正に取り組み、冬季クリーン暖房、ディーゼルトラック汚染対策、飛散粉じん総合規制を積極的に推進し、区域共同予防管理を強化し、重汚染天気に有効に対応し、環境管理能力を高め、秋冬季大気汚染総合対策攻略行動を実施することである。

産業構造の調整最適化の面で、「計画」は、工業汚染源の完全基準達成排出行動を実施し、「散・乱・汚」企業の総合是正を強化し、コークス・鉄鋼などの業種のアップグレードを推進し、工業企業大気汚染総合対策を強化し、汚染排出許可管理を促進することを提起している。

エネルギー構造調整促進の面では、クリーン暖房を有効に推進し、生活用石炭炭質監督を強化し、ボイラー総合対策を実施することを提起している。

輸送構造の積極的調整の面では、自動車類の基準超過排出行為の厳重取締、自動車用石油

製品の監督管理強化、クリーン輸送の積極的推進を提起している。

土地利用構造の調整最適化の面では、飛散粉じん総合対策の強化、施工粉じんと道路粉じんの監督厳格化、露天掘り鉱山の総合対策、農作物残茎野焼き禁止の厳格化を提起している。

区域共同予防管理強化の面では、大気汚染防止協力メカニズムの構築、重汚染天気緊急対応連携の強化、緊急対応排出削減措置の強化、現地事情に応じた工業企業のピークシフト生産の実施と大口物資のピークシフト輸送の実施を提起している。

基礎的な能力向上の面では、環境大気質モニタリング・ネットワークの改善、汚染源自動モニタリング体系の強化、科学技術サポートの強化を提起している。

公表組織：生態環境部

URL:http://www.mee.gov.cn/xxgk2018/xxgk/xxgk03/201810/t20181029_667650.html?keywords=

原文：

<http://www.mee.gov.cn/xxgk2018/xxgk/xxgk03/201810/W020181029350445762382.pdf>

2. 長江デルタ地域汚染対策

【 2018年4月 】

2.1 長江デルタ区域汚染防止協力メカニズム会議を開催

公表日：2018年6月4日
公表組織：中国環境報
分類：ニュース
キーワード：大気汚染防止、長江デルタ区域、区域横断汚染、共同予防管理

長江デルタ区域大気汚染防止協力グループ第六回作業会議兼長江デルタ区域水汚染防止協力グループ第三回作業会議が2018年6月2日に上海で開催された。

会議では、全国生態環境保護大会の精神を深く学習し、汚染防止攻略戦の状況について情報共有を行なったほか、区域の大気と水汚染防止協力の主な進展と成果について総括し、次の段階の協力作業配置について検討するとともに「中国国際輸入博覧会長江デルタ区域協力環境大気質保障計画」について討議した。

大気汚染防止の面では、重点を絞り、協力して汚染防止攻略戦を戦わなくてはならない。エネルギー使用構造最適化、エネルギー使用効率向上に力を入れ、産業構造調整、余剰老朽生産設備廃棄を強力に推進する。自発的に中央配置要求に応え、向上計画を速やかに立案し、確実に実行する。問題指向を堅持し、状況に応じた的確な薬を出し、ツボを押さえて、対策計画を立案し、より正確かつ効率的な排出削減措置を講じ、青空保護戦に勝利する。大気汚染防止特別協力プラットフォームと区域一体化協同プラットフォームの連携を強化し、環境保護協力と長江デルタ一体化発展の高度な融合を推進する。区域汚染防止協力と交通、エネルギー、情報、科学技術、信用、金融などの個別協力の有機的結合を強化し、より良く発生源対策を実施し、グリーン発展様式とグリーン生活様式の形成を推進する。港湾陸上電源、重汚染天気連携対応など共通問題の協同突破を強化し、基準の統一を整然と推進し、区域環境情報の共有を徹底する。中国国際輸入博覧会など重大活動での区域共同予防管理を強化し、細部にわたって着実に実行し、良好な環境質を共同で保障する。

長江デルタ区域大気と水汚染防止協力グループ成立以降、協議、共治、共有を堅持し、各メンバー団体は密接に協力し、協力メカニズム・プラットフォームの機能を十分に発揮させ、区域横断汚染共同予防管理の作業モデルを導き出し、区域環境大気質の顕著な改善を促進し、区域経済の共同発展と転換高度化を強力に促進してきた。しかし、区域環境大気質の改善効果がいまだ安定していないことも重視しなければならず、汚染防止を一層強化し、可及的速やかに弱点を補強し、基盤を強化しなければならない。

長江デルタ三省一市はこれからも引き続き全国生態環境保護大会の精神を徹底的に実践し、生態環境保護事業を進める決意と自信をさらに強化するとともに、厳格に評価し、責任を一層明確にしなければならない。また、エネルギー、産業、交通、用地の四大構造最適化調整から着手し、発生源対策と区域連携を深化させ、重汚染天気に効果的に対応し、断固と

して青空保護戦に勝利しなければならない。

公表組織：中国環境報

URL: http://news.cenews.com.cn/html/2018-06/04/content_73395.htm

【 2018 年 11 月 】

2.2 生態環境部が「長江デルタ地区 2018～2019 年秋冬大気汚染総合対策攻略行動計画」を公表

公表日：2018 年 11 月 2 日
公表組織：生態環境部
分類：政策ニュース
キーワード：大気汚染防止、長江デルタ地区、秋冬

生態環境部弁公庁は、長江デルタ区域大気汚染防止協力グループが承認した「長江デルタ地区 2018～2019 年秋冬大気汚染総合対策攻略行動計画」（以下「計画」）を公表し、区域 2018 年秋冬大気対策の主要目標、実施範囲、主要任務を提起した。

「計画」は、長江デルタ地区の大気質全体の改善のカギは秋冬にあり、頻繁に発生する重汚染天気は人民大衆が最も関心を寄せる突出した環境問題であると指摘している。現在、長江デルタ地区大気対策事業にはまだ弱点があり、構造的汚染が目立ち、秋冬防止措置の対応性が弱く、重汚染天気共同対応事業は立ち遅れている。

2018 年秋冬の長江デルタ地区大気対策の主要目標は、2018 年大気質改善目標を完全に達成すること、そして秋冬期間（2018 年 10 月 1 日から 2019 年 3 月 31 日まで）に長江デルタ地区の PM_{2.5} 平均濃度を前年同期比 3% 前後下げ、重度以上の汚染天気日数を前年同期比 3% 前後減らすことである。

「計画」によれば、攻略行動の実施範囲は上海市、江蘇省南京市、無錫市、浙江省杭州市、寧波市、安徽省合肥市、馬鞍山市など 41 の地区級以上の市である。

産業構造調整最適化について「計画」は、「三つのラインと一つのネガティブリスト」の至急作成、重汚染企業移転改造事業の実施、「高汚染、高エネルギー消費」業種の生産能力廃棄と削減強化、化学工業団地と化学工業企業の総合是正強化、「散・乱・汚」企業総合是正の全面的推進を提起している。

また「計画」は、エネルギー構造、輸送構造の調整などの分野での業務について詳細な配置を行った。同時に、関係各市の大気質改善目標、具体的任務、期限、技術的措置を明示している。

公表組織：生態環境部

URL:http://www.mee.gov.cn/xxgk2018/xxgk/xxgk03/201811/t20181112_673371.html?keywords=